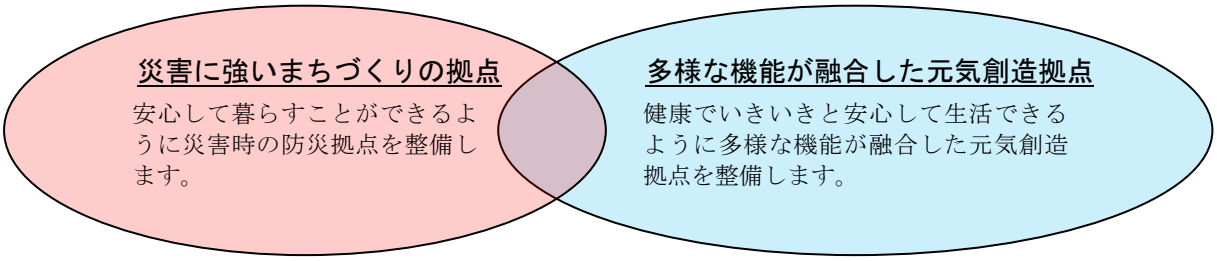
# 新川防災公園・多機能複合施設(仮称)整備事業の
# 基本的な考え方と基本設計の概要

## Ⅰ　基本的な考え方

### １　施設整備の目標

～　安心を明日へとつなぐ拠点づくり　～




災害時に延焼遮断帯となり、一時避難場所ともなる緑豊かな公園空間の創出を図るほか、防災機能のネットワークの中心となる防災拠点施設として整備を進めるとともに、周辺の公共施設を集約化、集積することにより、スポーツ、健康づくり、人財育成・交流など多様な機能が融合した、地域の元気を創造する拠点として、あわせて整備を進めていきます。

### ２　施設整備の方針

本公園の計画にあたっては、三鷹市基本構想をはじめとする上位計画から、周辺地区の課題と位置付けを整理し、防災公園街区整備事業を活用した事業スキームを踏まえ、計画地を含む市民センター周辺地区の課題に応えるべく、以下の整備方針を定めた。

| |
|---|
| 防災公園として一時避難場所となる広場を確保するとともに、防災センター(仮称)を整備し、公園、多機能複合施設、市民センターが一体となった防災拠点機能の充実を図る。 |
| 市の中心拠点である市民センターと「緑と水の回遊ルート」をつなぐ連続した緑を創造・成熟させ、緑のネットワークを強化し、地域特性を生かした緑豊かな景観形成を図る。 |
| 市民サービスの拠点とするために、一時避難場所となるオープンスペース、災害対策機能を有した健康・スポーツ拠点施設など、多様な機能の複合化を図る。 |

## Ⅱ　基本設計の概要

### １　施設全体の概要

（１）敷地面積：20,429.42㎡

内訳・防 災 公 園 部 分：15,335.74㎡

・多機能複合施設部分： 4,658.06㎡

・道　　路　　部　　分：　435.62㎡

（２）建築面積： 8,678.5㎡

（３）延べ面積：23,859.9㎡

（４）階　　数：地上５階、地下２階

（５）駐車台数：９５台（敷地内２１台、市民センター内７４台）

（６）駐輪台数：１９６台

### ２　新川防災公園(仮称)の整備コンセプト

建築物を地下に配し、地域の特性である緑のネットワークを充実させ、健康づくり・スポーツ活動の拠点、コミュニティ活動の展開の場として市民に親しまれる空間を創造するとともに、災害対策本部機能を有する多機能複合施設との一体性を有し、全体でひとつの公園として魅力ある緑の空間を創造する。

（１）平常時

ア　連続した緑の景観

総合公園規模の施設配置をコンパクトに整備するため、建築物を地下に配し、地域の特性である緑のスカイラインを活かした景観を創造する。

イ　まとまりのある緑の確保

災害対策本部機能を有する多機能複合施設と防災公園が一体性を有し、全体でひとつの公園として魅力ある緑の空間を創造する。

ウ　市民に親しまれる空間

緑のネットワークを充実させ、健康づくり・スポーツ活動の拠点、コミュニティ活動の展開の場として市民に親しまれる空間を創造する。

（２）非常時

ア　一時避難場所となる広場の確保

公園の地下に作られる建物の上部が避難広場となるため、円滑な避難動線が確保できるように公園の高さは約5mまでとした。また、敷地北西側の一部は、大雨時に浸水のおそれがあるため、公園内運動施設の1 階床レベルを約１m高く設定し、公園の東西広場も外周通路から勾配を設け、0.5m～1.0m程度高い範囲を広く確保した。

イ　避難時の広場へのアクセスの確保

避難流入人数が多いと想定される東西側に、それぞれ東側広場と西側広場を設けて滞留スペースとしながら、順次広場へ誘導可能な園路幅員を確保した。また緑化した斜面や階段状の植栽基盤、ドライエリア上部に設ける避難階段などにより緊急時にアクセス可能な計画とした。

ウ　防災関連施設の設置

一時避難場所としての災害時避難に対し、主に以下の防災関連公園施設を設ける計画とした。

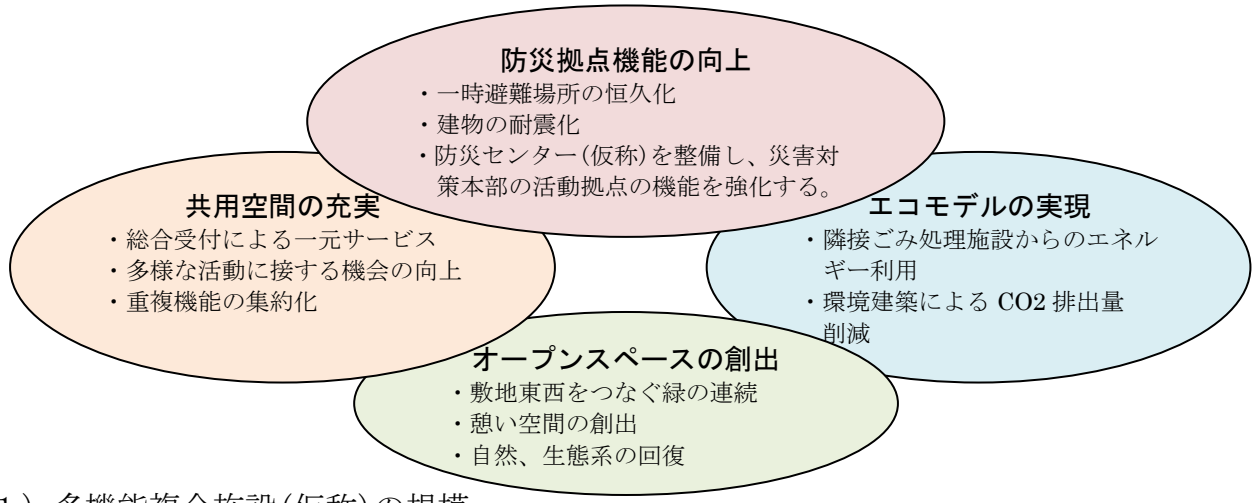
①災害用トイレ ②災害用備蓄倉庫③日陰棚（防災パーゴラ）④かまどベンチ

（3）公園施設（スポーツ施設）の規模

| 主な室名 | 総合スポーツセンター<br>実施設計時の面積 | 基本設計における<br>専有面積 |
|---|---|---|
| メインアリーナ | 1，７１８㎡ | 約1，９００㎡ |
| サブアリーナ | ８７５㎡ | 約1，０００㎡ |
| 武道場 | ９９２㎡ | 約1，１００㎡ |
| 小体育室 | ２６７㎡ | 約　３００㎡ |
| プール | 1，１９７㎡ | 約1，２５０㎡ |
| トレーニングルーム | ３５０㎡ | 約　３５０㎡ |
| 軽体操室 | ３００㎡ | 約　３００㎡ |
| 相撲場 | ０㎡ | 約　２００㎡ |
| 合　　計 | 5，６９９㎡ | 約6，４００㎡ |

## ３　多機能複合施設(仮称)の整備コンセプト

多機能な複合施設であることを踏まえ、総合受付による一元サービス、多様な活動に接する機会の向上など、複合化の利点を最大限引き出し、重複機能の集約など機能の充実を図る。また、高い耐震性能を有した防災拠点として防災センター(仮称)を整備し、災害対策本部機能の整備や本部と連携した活動拠点の充実を図る。さらに、環境にやさしい技術の採用を図る。




（１）多機能複合施設(仮称)の規模

| 階数 | 施設等 | 現在の専有面積 | 基本設計における<br>専有面積 |
|---|---|---|---|
| ５階 | 防災センター(防災課) | ７６㎡ | 約４００㎡ |
| ４階 | 生涯学習センター<br>(従前の名称：社会教育会館) | １，０９５㎡ | 約１，２００㎡<br>(5階会議室を含む) |
| ３階 | 福祉センター<br>(従前の名称：福祉会館) | ８６５㎡ | 約１，１００㎡<br>(地下1階倉庫を含む) |
| ２階 | 保健センター<br>(従前の名称：総合保健ｾﾝﾀｰ) | ８３６㎡ | 約１，０５０㎡ |
| １階 | ハピネスセンター<br>(従前の名称：<br>北野ﾊﾋﾟﾈｽｾﾝﾀｰ障がい児部門) | ８３７㎡ | 約９５０㎡ |
| 合　　計 | | ３，７０９㎡ | 約４，７００㎡ |

※　施設名称については、すべて仮称です。

（２）環境への配慮

ア　環境負荷の低減

・新ごみ処理施設の焼却排熱を利用した電力及び排熱温水の供給を受ける。

・屋上緑化及びバルコニー緑化により、日射負荷を減らし空調負荷を低減する。

・屋上に降った雨水やプール排水を、便所洗浄水や潅水に利用する。

イ　地下水への対策

・周辺の地盤状況や井戸等の水位を観測するなどの調査を行う。

・工法などの、技術的な工夫を検討し、状況に応じた適切な地下水対策を講じる。

・施工時に、必要に応じて観測用の井戸を設置して確認する。